



[氏名] 深瀬 龍
[出身都道府県] 山形県
[卒業期] 36期（平成24年度卒）



「地域の新人として教わろう」

山形県の僻地から、これから地域に出る後輩たちへメッセージを送ります。

さて、同じ自治医大卒と言っても派遣される地域は様々ですね。それでも、多くの卒業生で共通しているのは「暮らしたことがない地域で医者をやること」ではないでしょうか。

私自身、出身の山形市で働いた経験は初期研修＋後期研修の3年間だけで、あとは自分の出身から離れた田舎で勤務しています。だから寂しいということもなく、その地域の隠れた名店を探したり面白い所を探したり6年間楽しく義務年限を過ごさせてもらいました。

この記事を書いている時には大蔵村という山形県内で最も小さい自治体にある無床診療所で勤務しています。大蔵村はトマトが有名ですが実はワサビを作っていたり、近所の方に分けてもらったおこわを家族でご馳走になったり、小さい自治体だからこそその繋がりに支えられながら楽しく勤務している最中です。



そんな「地域エンジョイ勢」から、僻地勤務を楽しむちょっとしたコツを皆さんにお伝えしたいと思います。

私たちが僻地に派遣される時には、医療に関してある程度トレーニングを詰んだ状態で異動しますよね。そういう意味では地域の方々と比べてちょっとだけ医療がわかる人かもしれません。

一方で、私たちはその地域で暮らすことに関しては素人の状態で挑むことがしばしばです。そりゃそうですよね、ゆかりのある県と言っても出身でもない地域のことはなかなか分かりません。冬の天候はどうなのか、買い物はどこですればいいのか、美味しいお店はあるのか、知らないことだらけです。方言だってわからないこともしばしばですよね。

そんな私たちが外来でお話しする患者さんや一緒に働く同僚・スタッフの皆さんは、その地域に長年暮らしている「地域の大先輩」です。ここらは冬の雪が積もるからタイヤは早めに変えておいた方がいい、最寄りのスーパーは遠いけどその分八百屋や肉屋で色々買い出しができる、味噌ラーメンが絶品の小さい店がある、などなど。

医者不足の地域は「ここら辺は何にもないからね」なんて言われることもありますが、そんなことはありません。都会にあるようなものはなくても、その地域にし



かない面白いものが沢山あります。きっと皆さんが派遣される僻地も沢山の発見に溢れているはずです。

仕事を通して、皆さんは地域の住民と沢山交流することでしょう。交流の中で折を見て、先輩方に聞いてみてください。

「お米の収穫ってどうやるんですか？」

「ここら辺で美味しいお店ってどこですかね？」

「その言葉ってどんな意味か教えてもらえませんか？」

喜んで教えてくれる先輩達の言葉から、働く地域の様子がどんどん見えてくるはずです。

そんな交流を繰り返していくと、何も無いと言われている地域に何があるのか見えてきて、地域での暮らしが面白くなってくると思います。

知らない地域だからこそ、好奇心をくすぐりながら発見を楽しむ。これが私の僻地を楽しむコツです。

地域にきた新人として、大先輩達に地域のことや暮らしのことをたくさん教えてもらいましょう。そんなやりとりから先輩方の暮らしが見えてくると、生活習慣病



や関節痛がなぜ始まったのかを垣間見たり一緒に悩めるようになります。地域の暮らしを楽しむことが、診療に深みを持たせてくれること間違いなしです！

義務年限の捉え方は人それぞれですが、地域で暮らしてその一員として医療に携わる楽しみは自治医大ならではの醍醐味だと思います。皆さんが僻地暮らしを楽しめることを願って、筆を置きたいと思います。

義務年限を目一杯楽しんでください。